

令和5年度 市民と市長の対話集会

市長と語ろう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和6年（2024年）1月29日（月）
午後1時30分から3時30分まで
- 2 開催場所 崇善公民館ホール1・2
- 3 参加者 文化芸術活動をしている団体関係者6人
- 4 テーマ みんなが文化芸術を楽しめるホールに



5 市長あいさつ

本日は、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただきありがとうございます。平成23年に平塚市長に就任してから、市民の皆様と対話をさせていただいています。様々な御意見をいただいて、市政に反映できるものであれば、参考にさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。皆様は、様々な場所で公演活動をしているということで、各地のホールの良いところ、悪いところを御存じだと思います。そういうことを教えていただきながら、文化芸術の発展につなげていきたいと思っています。多くの皆様に文化芸術に触れる機会を提供し、関心を高めていただくため、令和4年3月にひらしん平塚文化芸術ホール（以下、ひらしんホール）がオープンしました。平塚市の文化芸術の魅力を発信し、市が活力を持つことで、市民の皆様に平塚への愛着を持って欲しいと思っています。障がいのある人もない人も、子どもからお年寄りまで、誰もが楽しめる親しみやすいホールになるように皆様の御意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

6 主なミーティングの内容

【司 会】

まず始めに自己紹介をしていただき、それから話し合いをしていきたいと思っています。

【参加者】

平塚市で知的障がいの方のための施設や保育園など、社会福祉事業を行って65年になります。父が万田の自宅を開放して、知的障がいのお子さん30名の受け入れから始めたのですが、利用者の成長に合わせて、働く施設やグループホーム、地域のニーズを受けた子育て支援としての保育園など、一步一步やってきました。知的障がいの方も音楽が大好きで、バンド活動をやっており、ドラムの方が全盲、ボーカルの方も障がいをお持ちです。アシストとしては、ベース、ギター、キーボードの3人だけで、基本的には御本人たちが主役です。オリジナル曲もあり、市民活動団体などが関係するライブへも参加させていただいています。

【参加者】

疾風乱舞というよさこいチームの代表と指導をしています。キッズクラスも3チーム指導しており、年に2回はひらしんホールを利用しています。疾風乱舞は、今年20周年を迎え、自主公演をこのホールでやりたいと思い、来年1月の予約を取りました。予約の取り方も大変なので、こういう話もしていきたい

と思います。

【参加者】

劇団カレーライスという演劇団体を主催しています。1998年結成で、25周年を迎えたところです。週に1回くらい、平塚市の公民館を中心に練習しています。湘南ひらつか市民演劇フェスティバルに参加したり、自主公演を横浜等で行ったりしています。公演の中には殺陣や日本舞踊も取り入れています。また、湘南ひらつか市民演劇フェスティバルの実行委員長を2018年頃から務めています。

【参加者】

ひらしんホールのPLAYERS BANK にテルミン奏者として登録しています。普段は会社員をしていて、趣味の一環として演奏しています。もともとひらしんホールのオープニングイベントにボランティアとして参加した際に、ホールスタッフの方から紹介されたのがきっかけでPLAYERS BANKに参加しています。普段はひらしんホールが主催する公演にボランティアとして参加しています。

【参加者】

poco a poco というユニットを組んでいます。私個人としては、大学生、高校生、小学生の娘がおり、演奏する側としてもそうですが、利用させていただく目線もあります。poco a poco は自主公演というより、演奏できるイベントに参加させていただくという形です。平塚市まちづくり財団に登録しており、幼稚園や保育園で演奏したり、八幡山の洋館で行われるイベントに参加したりしています。自主的にはレストランでコンサートをしています。ひらしんホールでは、オープニングライブに参加したほか、去年は「ホールで遊ぼう」というイベントにも参加して大ホールで演奏しました。また、八幡山の洋館の記念館企画委員をやっており、社会教育課と一緒にイベントの運営などを行っています。

【参加者】

私もひらしんホールのPLAYERS BANK に登録しています。2年前に娘を生み、しばらく演奏から離れています。個人的には、音大を卒業してから演奏の指導をしています。藤沢市にある湘南台文化センターの市民シアター・こども館とは、13年ほど、お付き合いがあり、イベントに出演させていただいています。4年間児童発達支援にかかわり、また、夫は車椅子ユーザーなので、身体に障がいのある方が、どのような施設だったら利用しやすいかという視点からお話をさせていただければと思います。

【司 会】

ありがとうございました。それでは、どうしたら多くの市民の方が、ひらしんホールを楽しむことができるかというテーマで話を進めたいと思います。自己紹介を聞いていますと、皆様はひらしんホールで演奏や公演をした経験があるということですので、今まで演奏や公演をしてきてどうだったのかということをお話しいただければと思います。

【参加者】

落ち着きがあって、温かい印象を受けています。舞台からはお客様全員の顔が見えるため、一体感を感じることができて、素敵だと思っています。年に2回踊るチャンスがありますが、毎回お客様があふれかえるほど集まってくださるし、子どもたちも楽しく過ごすことができて、ありがたく思っています。楽屋も広く、裏にも大きな部屋があり、大きな旗や大道具を置くことができるため、利用しやすい空間になっています。

【参加者】

ひらしんホールでは、2階のホワイエと大ホールの前のロビーで演奏したことがあります。普通のホールと違って、ロビーとは思えないくらい音が響きます。明るさも保たれていて、ホールだけではなく、ホール以外も使いやすいと思います。また、他のホールに比べて椅子の間隔が広く、階段の傾斜もなだらかで移動しやすいと思います。

【参加者】

一昨年の湘南ひらつか市民演劇フェスティバルで大ホールを使用しました。同時に多目的ホールの予約を取ったのですが、多目的ホールは客席がフラットなので、演劇を見るには少し不便です。何か方法はないかと思い、足場を組んで、お客様がフラットでも見える位置で上演すれば良いと考えましたが、去年の6月の公演は足場を組むためのライセンス取得が間に合わず中止にしました。大ホールを使う場合は、基本的にマイクを置きます。演劇の場合は人が動くので、面側にしか置けません。舞台に奥行きがあるので、マイクまでの距離が遠くなってしまい、声を飛ばすことが難しくなります。例えば中割、引き割り幕で舞台を狭くすれば良いのですが、フルで使おうとすると集音が難しいので、舞台のレイアウトを考えて使わないといけないと思います。バリアフリーについては、とても良いです。去年は、中央公民館で湘南ひらつか演劇フェスティバルを開催したのですが、大ホールの舞台に立つまでに、何段かの階段を上る必要があります。高浜高校の演劇部の生徒が車椅子だったので、バリアフリーが整っていないことを理由に舞台に立つのをやめて演出に回ったことがありました。もし、ひらしんホールの大ホールだったら、このようなことはなかっただろうと残念に感じました。

【司 会】

演劇で、これからひらしんホールの大ホールや多目的ホールを使っていく予定はありますか。

【参加者】

1つの団体で1200人呼べるアマチュア団体はありません。大きなイベントでないと大ホールは使いにくいと思います。多目的ホールの方が使いやすいと思いますが、客席の問題をクリアする必要がありますね。

【参加者】

舞台上に立っていると、2階席の顔が見えて全体が見渡せると感じます。先日、娘が高校の合唱コンクールに参加しました。ネット配信で見たところ、ピアノが舞台の中央に置かれており、指揮者が手前にいてピアノの後ろで歌うという正式な形で実施していたので、奥行きに余裕があって良いと感じました。ピアノの発表会で多目的ホールを使わせていただいたことがあるのですが、席数が足りないので、人数を限定したことがあります。かといって大ホールは使えないので、小ホールみたいな立ち位置の場所があれば良いと思います。

【参加者】

多目的ホールとホワイエで演奏した際、どちらも響きは悪くありませんでしたが、なぜ小ホールを作らなかったのかを、私だけではなく、平塚市中の先生や指導者の方がおっしゃっています。そもそもホールというのは、市や県の象徴として作られているということもありますが、市民のニーズを聞いて作られたのか、少し疑問があります。音楽の友人が大ホールを使用しているのですが、控室がとても少ないということです。また、借りた時間から使用したいのですが、使用開始が30分後になってしまうなど、細かいところを改善してほしいので、それを伝えられる場所があったら良いと思います。

【参加者】

福祉関係では使っていませんが、舞台に立つ経験は大事だと思っているので、今度、ぜひ、使いたいと思っています。

【司 会】

落合市長、皆さんの感想を聞かれて、いかがでしょうか。

【市 長】

評価いただいたのはありがたいと思っています。皆様が言われた、使う側の視点や、お話には出なかったのですが、使用料の問題などは、私の方にも届いて

います。皆様からお話をお聞きして、やはりそういうところが課題だということが分かりました。平塚市は人口の割には公共施設が多いので、施設を維持するだけで、自治体の財政は厳しくなります。人口減少社会における自治体経営として、施設を集約し、機能をしっかりと持たせながら、市民の皆様 서비스에提供できるような、中身の濃いものにしなければいけないというのが、ここ何年かの考え方になっています。今回、ひらしんホールを建てるに当たり、何人かの市民の皆様にご委員として御意見を伺った結果、こういう形になりました。前の市民センターは1400席あったのですが、26万人という平塚市民の規模からすると、新しい施設をそれ以下の席数にすることへの反対意見もありました。しかし、これからは多くの人を集めるだけではなく、満足していただける規模感というものを考える必要があるということで、オーケストラピットを含めて1200席、除くと1000席にするという結論に至りました。公演の内容によっては広すぎるという御意見がありましたが、演じる人たちに満足していただき、それが市民の皆様にも伝わることを目指しています。オーケストラピットがありますので、オペラもできるし、歌舞伎もできます。多種多様な種目ができるということで、様々な可能性を秘めたホールにしました。どの様な運用が良いのか、皆様の御意見を聞きながら検討していきたいと思っています。それから席数、規模感です。ひらしんホールは大ホールという位置づけになっていますが、実は、これを作るときに小ホール機能はどうするかという話がありました。多目的ホールを区切る形で小ホール機能を持たせることができると考えていましたが、今、お聞きしたら、その辺りができていないようなので、これからの貸し出し方や使い方を考えていきたいと思っています。また、大ホールはひらしんホール、小ホールは多目的ホールと各公民館を使っただけ、地区で様々な文化芸術の発表をしていただければと思います。中央公民館はバリアフリーではないため、中央公民館の中ホールとしての機能をどうするかが課題となっています。近くにある勤労会館や福社会館の建物のあり方も含めて、中央公民館の目指すべき姿を考える段階になっています。皆様の御意見を伺いながら機能をどうするか考えていきたいと思っています。

【司 会】

ひらしんホールは、大人から子どもまで、障がいがある方も、皆が楽しめるというテーマがあるのですが、高齢者に優しく、子どもにも魅力的で、障がいがある方も使いやすいということについて、御意見のある方はいらっしゃいますか。

【参加者】

誰もが楽しめるということだと、私が関わってきた子どもの中で、自閉症や、ADHDの子どもがいますが、自閉症の子どもは一人で外を歩くことができません。そういう子どもを含めて楽しめるということだと、平塚市では移

動支援の枠が非常に少ないので、その枠を拡充していただければと思います。あと、ひらしんホールは駐車場が非常に少ないと思います。車椅子に乗っている方は、雨の日の移動が難しいです。びしょ濡れになります。駐車場がないと、行くのは止めようかということになってしまうので、駐車場の拡充や、車椅子の人は屋根の下に停められるなどの配慮をしていただけると良いと思います。

【司 会】

出演者の方たちが停める駐車場はありますが、たくさん出演者がいる団体にとっては不足することもあるかもしれません。その辺りは工夫していらっしゃいますか。

【参加者】

各団体、車を何台で来られるか伺って、今回はいっぱいなので1台減らしてください、というようなやり取りで調整しています。逆に、お客様の駐車場はありませんので、公共交通機関を御利用くださいとしか言えないですね。

【司 会】

皆さん、ひらしんホールだけではなく、他のところでも活動されていて、こんなホールが良かったとか、こんな風にしてみたらとか、参考になる事例がございますか。

【参加者】

湘南台文化センターの市民シアターが主催するバックステージツアーでは、プロの演奏家を招いて、子どもたちがその舞台を作り、司会や進行を行います。子どもたちがゼロから作り上げるというもので、年に1回行っていますが、毎回応募が多くて、ツアーも満員になります。そういったイベントが平塚市でも定期的に行われると良いと思います。

【司 会】

PLAYERS BANK というのは、どういうシステムなのですか。

【参加者】

我々は多くの方に活動内容を知っていただくために登録しておく、使う方はファーストコンタクトをとるためにひらしんホールに問い合わせるというシステムで、マッチングまでを支援し、具体的な話になれば、アーティストと依頼者が行うというものです。

【参加者】

私たちアーティストにひらしんホールを活用するアイデアがある時、誰に伝えたら良いのか分かりません。それを協議する委員会のようなものがあると動きやすいと思います

【司 会】

ひらしんホールは指定管理ということで、アイデアがある場合は、市に言えば良いのか、運営会社に言えば良いのか、どうなのでしょう。

【市 長】

まずは、仕組みを作らないといけないかもしれません。通常は市が建物を建て、ノウハウを持っている会社に運営をお任せするというのが指定管理です。運営会社に文化芸術を盛り上げるための企画をしていただき、進めていこうというのですが、市が関わらないということではありません。指定管理は毎年、予算がいくらで、こういう事業を実施してくださいという契約をします。我々の方から、こういう声が上がっているということは伝えることができます。

【文化・交流課長】

平塚市からは、ひらしんホールの事業の大枠を事業者に提示しています。それに基づいて、事業者がどういう事業が良いかを考えて運営しています。指定管理者が企画を立案し、市がそれを承認しています。今は企画内容を検討する運営委員会のようなものはありませんので、すぐに実現するかどうかは申し上げられませんが、勉強させていただきたいと思います。

【司 会】

もっとひらしんホールを盛り上げていくためには、市民のアイデアを吸い上げて、良い企画を実現できるような仕組みが大事ですね。お子様たちが、イベントの司会から進行まで全てにかかわるのも良いアイデアだと思います。障がいのある方がひらしんホールを使って発信したいという希望はありますか。

【参加者】

発達障がいの方は飛び抜けた才能を持っています。アートもそうですが、発想や感性が違って、発想が面白いし、化学反応を起こすのです。生演奏だとなおさらです。そういう世界を共有できたら良いと思っています。動員力は大きいと思います。

【参加者】

子育てママからなのですが、搾乳室と指定のベビーカー置き場がないので、どうにかできないかという声があります。

【司 会】

劇団カレーライスのような演劇団体は増えていますか。

【参加者】

増えていないので、私も増やそうと思っています。湘南ひらつか市民演劇フェスティバルは有料なので、学生の参加が難しくなります。そのためミニ演劇フェスを開催しました。これは、中央公民館の小ホールを使って無料で行うので、学生も参加しやすく、市外の方でも参加可能です。初めての人が参加できる機会を増やしたいと思っています。また、去年の湘南ひらつか市民演劇フェスティバルでは、市民の参加者が増えていないことを痛感しました。そのため、私の団体がワークショップという形で参加者を公募したところ、演劇をすることが初めての3人を舞台に立たせることができました。演劇団体や市民の参加者を増やすためには、市民の方が演劇に興味をもち、イベントの参加にまでつなげていく必要があるため、友人、知人、親子を巻き込んでいくことが重要だと考えています。

【参加者】

音楽に関しては、演奏する場を求めている人が多くいます。演奏の機会を増やすことによって、そのニーズに合致すると思います。演奏を聴きに来る人はほとんどが市民の方です。一度ホールに足を運んで情報を得たら、毎月実施されている演奏会を、全て見に行くようになった人もいます。初めのきっかけ作りが大切なので、これから改善していけば良いと思います。また、いろいろなジャンルの人に演奏してもらい、様々な世代の人に聞いてもらえるようになると良いと思います。

【司 会】

ここまでの皆さんの御意見をお聴きになって、いかがでしょうか。

【市 長】

ひらしんホールは文化芸術の裾野を広げてもらうために造ったので、まずは、文化や芸術に親んでもらえるような導きが必要だと思いました。それも指定管理に任せるだけではなく、市としてもひらしんホールに親んでもらうための企画が必要だと思いました。今日の意見を聴いて、親しみを持っていただく場所になる工夫をしなければならないし、皆様の思いが形になるようなホールを目指して、一生懸命考えなければならないと思いました。

【司 会】

これからは、皆が更に参加・交流できるホールを目指してということで話合ってください。御意見はありますか。

【参加者】

ひらしんホールが完成して2年たちましたが、いまだにホールのことを知らない人が多いです。ハード面ではいろいろ改善する点があると思いますが、良い施設だと思います。慣れてくると実は使いやすいので、主催者に対しても、情報発信を増やしたり、体験利用の機会を設けたりした方が良いと思います。

【司 会】

劇団カレーライスさんには、一貫したテーマや特徴はありますか。

【参加者】

子どもから大人まで楽しめるということを基本テーマにしています。どこの団体も同じだと思いますが、活動にはお金が掛かってしまうので、どういう層に刺さるかということを考えながら企画する必要があります。

【司 会】

継続して、毎年バージョンアップしていくような楽しい企画を考えていく。いろいろな仕組みはあるのですが、それを盛り上げていくためのアイデアはありませんか。

【参加者】

ひらしんホールのギャラリーを使って、ひらつな祭ちびっこ笑顔絵展を開催しています。600人くらいの似顔絵を張ります。子どもたちの絵を見にギャラリーに来ることが、ホールに足を運ぶきっかけになれば良いと思います。企画では指定管理者のスタッフと一緒にイベントを計画するような仕掛けができれば良いと思います。

【参加者】

企画時点から皆さんに興味を持ってもらうことが、とても大事だと思います。その前提として、もっと市民の文化レベルを上げる活動が必要だと思います。例えばコンサートのプログラムコンクール（どんなコンサートなら行きたくなくなるかを考える。）の募集を行い、その企画でコンサートを開催することで話題性が上がると思います。また、PLAYERS BANKに登録している私たちがどういうパフォーマンスをするかが見え、どんな存在かが分かるチャンネルを作ってもらえるとありがたいです。

【参加者】

リレー形式のコンサートや、様々な演奏を組み合わせることで名前を憶えてもらえたり、好きなグループを見つけたりできるので、そういう企画があれば良

と思います。演奏したい人はたくさんいます。プロの演奏でなくても楽しめる方はたくさんいるので、機会を作ってもらおうか、機会を作りたいと思います。

【司 会】

ひらしんホールには、市民が集える場所の役割もあるので、買い物帰りにぶらっと立ち寄る、親しみやすい場所にしていきたいというのが今日のテーマの1つです。ひらしんホールはいろいろと素晴らしいことをやっていますが、皆さんは注目して気軽に足を運んでいるでしょうか。

【参加者】

ホールを造った時のコンセプトに“夜まで明るい”が入っていると聞いたことがあります。良い意味でも、悪い意味でも、学生さんが勉強していて、人が集まる場所にはなっています。文化芸術ではなく、学生さんが図書館代わりに使っているため、買い物帰りにスマホの充電をするような使い方でも良いので、固定客ではなく、入れ替わりができるような使い方をしないといけないと思います。固定の学生さんばかり利用しているので、文化芸術につなげるようにした方が良いと思います。

【参加者】

私の所属する団体のメンバーは学生で、情報発信はSNSです。ひらしんユーチューブチャンネルということで面白く発信したり、インスタグラムなどで発信してくれたら良いと思います。私たちのメンバーには、SNSでの発信が一番届くので、特にインスタグラムを活用していただきたいと思います。

【司 会】

今日は、夢を語ってくださいということなので、一人ずつお願いします。

【参加者】

いろいろな人が交流する場所であってほしいし、知ってほしいと思います。、まだコロナが明けたわけではないですが、社会はようやく動き出しています。しかし、今までどおりではないので、巻き返しを図っていこうと思います。

【参加者】

ホールができることを楽しみにワクワクしていました。ホールができて、舞台に出て、子どもさんやお母さんが喜ぶ顔を見て幸せです。自主公演ができるところまでできていて、本当に夢をたくさんいただいていますし、自分が頑張る原動力にもなっています。ひらしんホールを作っていただきありがとうございます。

【参加者】

私は、県内の劇団を多く知っています。毎年1団体でも湘南ひらつか市民演劇フェスティバルに招待できれば、その関係者の方を平塚市に呼ぶことになります。彼らがひらしんホールを見れば平塚市のイメージの改善になると思います。また、情報発信を集約的にできる場があれば良いと思います。

【参加者】

平塚市は、文化芸術のほかにもスポーツ、防災、福祉が充実していて、住みやすい街だと思います。文化芸術だけではなくてスポーツや防災、福祉、観光が噛み合うような、ハブになるような関わり合いができれば良いと思います。博物館や美術館とコラボして、博物館で演奏したり、美術館の所蔵品をひらしんホールに展示したりするのも良いと思います。また、平塚市の公共施設ならアーティストは誰でも演奏や演劇ができるような資格を与える仕組みができれば面白いと思います。

【参加者】

平塚市のいろいろな施設で、音楽イベントなどを同時多発的に開催するという企画はどうでしょうか。イベントが大きくなり、市外の人もやってくるので、長い目でみると良い企画だと思います。美術館にはコンサートができるホールがありますし、八幡山の洋館でもコンサートができます。演劇や他のイベントも一緒にできるので、ひらしんホールを中心に全市的なイベントが開催できれば良いと思います。

【参加者】

個人的なことですが児童発達支援に携わってきたので、皆が楽しめる、皆が喜べるものづくりをしたいと思っています。発達障がいの子にも音楽理論がわかりやすいような絵本を作ったりしていますが、そういうものの発信もひらしんホールを使ってできれば良いと思います。また、文化レベルを上げていくことは大事なことです。藤沢市のプラネタリウムで演奏する企画があるように、平塚市でも、美術館や博物館のような場所での演奏の機会をさらに多く提供してくださると嬉しいです。

8 市長によるまとめ

今日は、ひらしんホールのお話をいただき、ありがとうございました。ひらしんホールを建てたときに、平塚市文化芸術振興計画を策定しました。この計画には、一つ目「平塚を文化の街にしていこう」、二つ目「その文化を支える人づくりをしていこう」、三つ目「その文化を育む場を作っていこう」という基本目標

を設定しています。こういうこともあり、皆様にお話しいただいた課題についても、しっかり取り組んでいかなければいけないと思っています。平塚市は人口26万人の街ですが、博物館や美術館があり、図書館も4館あり、社会教育の取組も進んでいます。また、文化芸術の中には、福祉、教育、スポーツ、産業、都市景観、歴史、自然が含まれますが、これらが皆様に親しみやすく、中身が濃く広がるよう取り組んでいきたいと思っています。皆様のお話を聞いていて、小さい時から、文化芸術に親しむ環境を作っていくことが必要だと感じました。文化芸術というのは、長い人生を生きていく上で大切なものです。最後になりますが、昨年、リトアニア共和国のカウナス市と姉妹都市の提携をしました。リトアニアは、歌や踊りを大切にしており、そういうところでも平塚市の皆様と交流したいということです。機会がありましたら、ぜひよろしくをお願いします。